

AFP-Ricin A complex は AFP 産生 Hep G₂細胞に対し, anti-HALP-Ricin A complex に比べ, 明瞭なる選択毒性を示さなかつた. ③過剰抗体による inhibition 実験にて, anti-HALP-Ricin A complex の選択毒性が, HALP と抗体との結合に依存することが示唆された. ④ HALP, AFP を抗原として用いた選択毒性の相違は, 両抗原の存在部位によるものと考えられるが, さらに検討を加えてゆきたい.

質問 (大阪大) 佐治 文隆

Anti-AFP-RTA conjugate が Hep G₂細胞に対して無効であつたのは, どのような機構によるものと考えるか?

質問 (北海道大) 大川 清
polyclonal Ab を用いた方がよいと思うが.

質問 (大阪成人病センター) 根来 孝夫

HALP および AFP に対して用いられた monoclonal 抗体の affinity の差についての検討結果は如何か.

164. Virus を用いた癌特異免疫療法 (第2報) —Virus 反応性ヘルパーT細胞活性の誘導及びその測定法の確立—

(済生会中津病院)

清水 敬生, 三浦 捷一, 佐田 博之
赤垣 英子, 入江 達雄, 倉智 敬一
(大阪大・微研) 奥平 吉雄

目的: ウイルス (以下V) で腫瘍細胞を修飾して免疫する方法を開発した. その際に予め宿主がVに感作されていると強い in vivo 抗腫瘍免疫が誘導されることを明らかにした. 本研究の目的は, Vで感作したマウスの脾細胞中にV反応性ヘルパーT細胞 (Tc) が誘導されているか否か, そしてその Th はVとは無関係な標的抗原に対してもヘルプするの否かを明らかにすることである.

方法: マウス (C₃H/HeN) 正常脾細胞又はV primed 脾細胞に850 X 線照射したもの (helper source) を正常脾細胞 (responder) と共に培養し, これを TNP 化した脾細胞 (TNP-self), V 感染脾細胞 (V-self), 及びV感染脾細胞に TNP を付加した V-self-TNP で抗原刺激し, 5 日目に培養細胞の抗 TNP-CTL 活性を ⁵¹Cr-release 法で測定した (CTL-helper). 又, responder を TNP-KLH primed 脾細胞として上記と同種の系で5日目に抗 TNP-PFC 活性を測定した (B cell-helper).

成績: helper source として正常脾細胞を用いた場

合, 全く抗 TNP-CTL 活性は認められず, V primed 脾細胞を用いた場合は V-self-TNP で刺激した群でのみ強い抗 TNP-CTL 活性が認められた. この活性は helper source である V primed 脾細胞を α -Thy 1, 2+C で処理することにより完全に消去された. さらに抗原刺激を AED-self-TNP で行つても CTL-helper 活性が認められなかつた. 上記の結果は B cell helper についても同様であつた. 以上の事から V primed 脾細胞中には, Vとは無関係な標的抗原に対する CTL 及び B cell helper T 細胞活性が認められ, これらは活性化の段階で抗原 (V) 特異的であることが示された.

考察: 本研究の標的抗原 TNP を TATA に置換すると, 腫瘍系によつて effector が異なつても (α TATA killer 又は α -TATA 抗体), V 反応性 Th は, その effector の活性をヘルプし, 強い in vivo 抗腫瘍免疫を誘導に結びつくと考えられた. このことから, Vを腫瘍細胞の修飾抗原として用いる際には, 予めVで感作 (priming) しておくことがこの実験系のポイントであると考えられた.

165. 子宮頸部扁平上皮癌株及び子宮体部腺癌株に対するモノクローナル抗体の作成

(慶応大)

蔡 篤仁, 野沢 志朗, 高山 泰子
鄭 成輝, 小島 雅彦, 筒井 章夫
栗原 操寿

(国立東京第二病院)

秋葉 隆三, 山岡 完司

目的: 癌細胞に対するモノクローナル抗体は癌の診断・治療に大きな役割を果たす可能性が期待されている. 今回, 我々は当研究室で樹立した子宮頸部扁平上皮癌培養株 SKG-IIIa 及び子宮体部腺癌培養株 SNG-II に対するモノクローナル抗体 (Mab) を作成し報告した. 方法: SKG-IIIa 及び SNG-II 細胞を免疫原として Kohler & Milstein の変法により mouse Mab を作成した. Mab の screening 及び認識する抗原決定基の検索には酵素免疫測定法 (EIA 法) 及び免疫組織化学法 (ABC 法) などを用いた.

成績: 1) 免疫組織化学的染色では抗 SKG-IIIa Mab (IgG2a) は子宮頸部扁平上皮癌 (7/13) と反応したが, 肺扁平上皮癌, 正常扁平上皮基底細胞, 腎尿管上皮, 胃粘膜などとも反応した. 抗 SNG-II Mab (IgM) は子宮体部腺癌 (B1クローン19/24, F9クローン13/14) に高い反応性を示したが, 稀に正常子宮内膜